

【主な虐待の種類】

身体的虐待	殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる、家の外に締め込めなど
ネグレクト	乳幼児を家に残して外出する、食事を与えない、ひどく不潔なままにする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない、他の人が子どもに暴力を振るうことなどを放置するなど
心理的虐待	言葉により脅かす、無視する、きょうだい間で差別的な扱いをする、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう（面前DV）など
性的虐待	子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にする など

▶出産後のママは  
下記の状態から、子育てが上手くいかないことも

マタニティブルーズ	約20～30%の母親が経験。出産直後から数日後頃まで気分が変わりやすい。不安、緊張、物忘れや集中力の低下、疲労感、食欲不振、睡眠障害 等
産後うつ病	約10～20%の母親が経験。興味や喜びがなくなる、不眠や睡眠過多、過度の罪悪感から自分を責める等。母親が本来の自分に戻ったと感じるには1年近くを要することもあります。
産後精神病	発症頻度は1000回の出産に1～2回。不眠、焦燥感、妄想や幻覚に伴う混乱や困惑、一時的な記憶や意識の障害。症状は薬物療法によって改善することが多く、医師の治療が必要。

- ◇児童相談全国共通ダイヤル ☎ 189 (お住まいの地域の児童相談所に繋がります)
- ◇宮古島市役所 児童家庭課 家庭児童相談室 ☎ 0980-73-1947 受付：平日8時半～17時15分(祝日除く)
- ◇児童家庭支援センターはりみず ☎ 0980-79-0939 受付：平日9時～18時 ※夜間、土日祝日でも電話受付しています。

- ◇沖縄県中央児童相談所 宮古分室 ☎ 0980-75-6505 受付：平日8時半～17時15分 ※夜間、土日祝日はおきなわ子ども虐待ホットラインへ転送されます。
- ◇おきなわ子ども虐待ホットライン ☎ 098-886-2900 受付：24時間、365日 (児童相談所宮古分室閉庁時)

宮古島は24時間365日、子育てについて相談できる窓口が用意されています。些細なことでも独りで悩まずに、まずはご相談ください。



独りで悩まないで



未来へと  
命を繋ぐ  
189 (いちやく)

～あなたの勇気が  
子ども、あなた自身、  
そのご家族を救います～

11月は『児童虐待防止推進月間』

児童虐待かどうかは、その行為の程度や、「しつけ」とか「良い子にするために」という保護者の気持ちに関わらず『子どもにとって有害であるか』、『子ども自身が苦痛を感じているかどうか』、という視点から判断されます。児童虐待かどうかを見分けるには、第三者の客観的な視点も重要になってきます。児童虐待についての現状を知り、児童虐待を早期発見したり未然に防ぐためできることを考えてみませんか。市役所児童家庭課に設置されている「家庭児童相談室」に寄せられる相談件数は年々、増加傾向にあります。また相談内容の内訳は

【家庭児童相談室 相談受付延件数】	
平成28年度	962件
平成29年度	1,278件
平成30年度 4月～9月	503件

1位 児童虐待の疑い、2位 環境福祉（経済的問題、養育に欠ける問題、不良な地域環境等、児童をめぐる環境に関する相談）、3位 子どもの養育や心配事に関する相談、と虐待を心配する相談が最も多くなっています。児童虐待かも、と思っただけに相談することが大切。連絡は匿名でも可能で、連絡者や連絡内容に関する秘密は厳守されます。

「子育て」から「子育て」へ

子育てにおいて、「しつけ」と称して、叩いたり怒鳴ったりすることは、恐怖により子どもをコントロールしているだけで、子どもの成長の助けにならず、子どもの心身に悪影響を及ぼします。子どもは「なぜしかられたのか」が理解できず、暴力や暴言を受けた事実のみが子どもの心と体に残ります。『子育ての不安や負担は、時に保護者に重くのしかかります。家族や親族に協力してもらったり、自治体やNPO、相談機関などのさまざまな支援サービスを検討することが大切です。また、子育ての苦労を気軽に相談できる友人の存在など、「子育てが『孤育て』にならないように』することが出来る仕組みが重要』と野原さんは話します。子どもへの接し方が適切か、地域全体で見守ることのできる環境づくりが重要になります。

「地域全体で、子どもを見守るような環境づくりを」



野原 勝 さん (57)  
のはら・まさる ●現沖縄県宮古福祉事務所 兼 中央児童相談所宮古分室室長。  
出身は旧城辺町西城地区。